
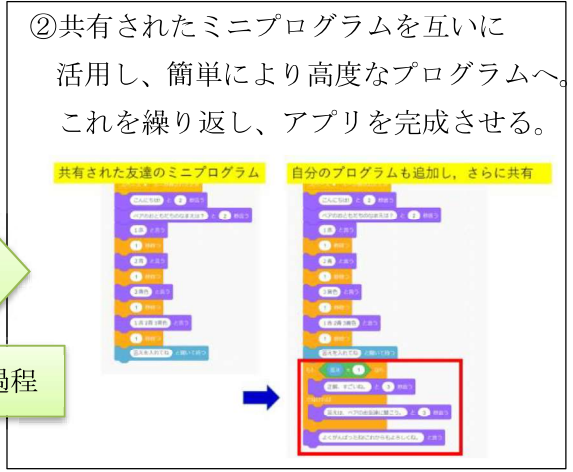
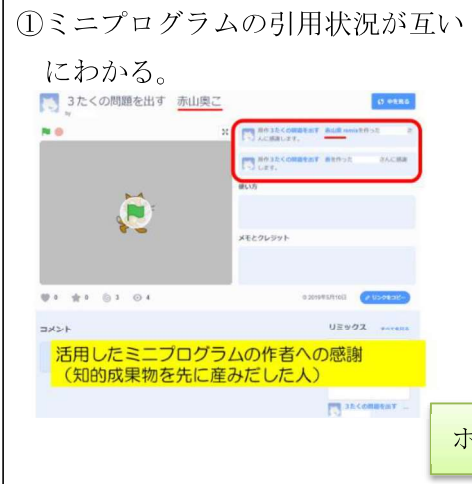



小学校プログラミング教育実施レポート

令和2年度から必修化された小学校プログラミング教育の実施の様子を紹介するものです。
 未来の学びコンソーシアムにて実施内容の精査を行うものではありません。

学習活動名	1年生ともっと交流できるアプリを作ろう
学年	小学校第6学年
目標	①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 ①スクラッチでの制作手順を理解し、自分が構想したプログラムを適切に制作することができる。 ②1年生の目線からプログラムの課題を見だし、制作手順を論理的に考えて解決している。 ③1年生にとってよりよいプログラムであるために、自分なりの考え方で構想しようとしている。
教材タイプ	ビジュアル言語
使用教材	スクラッチ
環境	児童31人で31台の端末を使用
都道府県	長野県
実施校	信州大学教育学部附属松本小学校
学習活動の概要・児童の様子(プログラミングの活動を中心に記載ください。)	☆クラスで協働してアプリを開発する。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>①アプリの機能を分解して、ミニプログラムを作る。</p>  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>②共有されたミニプログラムを互いに活用し、簡単により高度なプログラムへ。これを繰り返し、アプリを完成させる。</p>  </div> </div> <p style="text-align: center; margin: 10px 0;">➡ 制作過程</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>①ミニプログラムの引用状況が互いにわかる。</p>  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>②相手意識をもった制作 「〇〇君のためにもっといいアプリを」という思いが溢れる。</p>  </div> </div> <p style="text-align: center; margin: 10px 0;">ポイント</p>
成果と課題	○ミニプログラムの制作により、プログラミングに苦手意識のあった児童も意欲的に取り組み、多くのミニプログラムを制作・活用することができた。